令和６（2024）年　12 月 23 日

保護者の皆さまへ

吹田市立千里第一小学校
校 長　岡 本　公 助

# 令和６年度全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、６年生を対象として「令和６年度全国学力・学習状況調査」を実施し、９月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語、算数に限られております。測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった６年生には、得られた課題をもとに、よりきめ細やかな指導を進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

## １．教科に関する調査の分析

◆国語＜概要＞

・「書くこと」について、全国値と比べやや下回っている。

・「話すこと・聞くこと」、「読むこと」は全国値をやや上回っている。

・学力の分布に関しては、平均正答数は全国値をやや上回っている。

◆国語＜各領域における成果と課題＞

【話すこと・聞くこと】

・「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる」は全国値と比べ大きく上回っている。

・「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる」は全国値と比べてほぼ同じである。

【書くこと】

・「目的や意図に応じて、集めた資料を分類したり関係付けしたりして、伝えたいことを明確にすることができる」は全国値と比べてほぼ同じである。

・「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる」は全国値と比べてやや下回っている。

【読むこと】

・「登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基にとらえることができるかどうか」「人物像を具体的に想像することができるかどうか」は全国値をやや上回っている。

【言葉の特徴や使い方に関する事項】

・「話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができる」は全国値をやや上回っている。

・「学年別漢字配当に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる」は全国値を下回っている。

【情報の扱い方に関する事項】

・「情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる」はやや全国値を上回っている。。

◆国語における今後の改善点
・【話すこと・聞くこと】については、授業の中で、伝えたいことを明確にして、構成をじっくり考える時間を設けることで力を付けていく。また、友達の話を聞くときには、自分の考えと友達の考えを比べながら聞くことを心がけるよう指導していく。
・【書くこと】については、児童が書いた感想や意見文を互いに読み合ったり、学習成果物を第三者に読んでもらったりする経験などを通して、言語活動の目的を明確にし、児童がより主体的に学習に取り組んで書く力を伸ばせるようにする。また、書いた文章を推敲したり、各教科で考えと理由や振り返りを書いたりする時間を設けるなどして、書く経験を増やしていく。
・【読むこと】については、説明的な文章を主な題材として、中心となる語や文を見つける時間やそれらをまとめて要約する時間を学習計画に位置付けて読む力を付けていく。また、本校の研究におけるユニバーサルデザイン三つの視点「視覚化」「共有化」「焦点化」の視点を継続して学習に取り入れることで、児童が楽しく学び合い「わかる・できる」よう、授業づくりを工夫配慮していく。
・【言葉の特徴や使い方に関する事項】については、学習した漢字を文の中で正しく使えるように、宿題やモジュール学習を中心として、継続して指導していく。また、既習の漢字を日常的に活用できるよう指導していく。
・【情報の扱い方に関する事項】については、写真や図・表がどの叙述と対応しているか考えたり、叙述と適切な資料が関連しているか問う活動を行ったりすることを通して、説明的な文章で出てくる図や表が叙述とどうつながっているのか読み取る力を付けていく。また、言葉に対する対象が何なのか文学教材や説明的な文章の学習の中で共有するために、オクリンクやムーブノートを活用する等して、文中の言葉が持つ効果について話し合う機会を取り入れていく。
◆算数＜概要＞
・「データの活用」の領域は全国値とほぼ同じである。
・「図形」「変化と関係」「数と計算」の領域は全国値と比べてやや下回っている。
・学力の分布に関しては、平均正答数は全国値をやや下回っている。

◆算数＜各領域における成果と課題＞
【数と計算】
・「数量の関係を□を用いた式に表すことができる」は、全国値をやや上回っている。
・「除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解している」は全国値を下回っている。
【図形】
・「球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができる」は全国値をやや上回っている。
・「直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解している」「角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できる」は全国値を下回っている。
【変化と関係】
・「速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できる」は、全国値をやや上回っている。
・「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる」は全国値を下回っている。
【データの活用】
・「示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できる」は、全国値をやや上回っている。
◆算数科における今後の改善点

・【数と計算】では、基準量と比較量を正確に捉えるために、問題文だけで量を判断するのではなく、図と関連させることで量をイメージするなどの工夫をしていく。既習の学習であっても計算の手順を再度確認したり小数点の位置の概念を振り返ったり、学習が苦手な児童に寄り添い授業を進めていく。また、既習の学習を意識するために授業の初めの時間に復習したり、新しく学ぶ学習事項を関連付けて学習ができるよう指導していく。
・【図形】では、辺の長さや、角の大きさなどに着目してどのような見方で考えたかを共有したり、解き方を交流したりするなど、図形に対する見方・考え方と関連付けて考えさせるなどの工夫をしていく。面積や体積を求める学習では単に公式に当てはめるのではなく、適宜なぜその公式になるのか振り返りながら学習を進めていく。また、イメージをすることが困難な児童がいることを想定し、デジタル教科書などICT機器を活用した授業作りを行っていく。
・【変化と関係】では【数と計算】の割合の指導と同様に、問題文から数値を見取り、公式に当てはめるだけでなく、図と関連させるなどの工夫が必要であると考える。問題を読み、図などに表現して考えることができるよう工夫していく。また、単元の初めの導入や学習事項を意図的に日常生活と結びつけるなどの工夫を行い、学習と生活を結びつけることができるよう指導を行っていく。
・【データの活用】では、データの分析を行い、結論を表現する場面において、どのような分析の方法を選択するのが最適なのか自分の考えを明確に表現できるよう指導していく。また、授業の中で、児童の生活と関わりのあるデータを提示するなど、主体的に学習を進めることができるよう指導を行っていく。

**2．生活習慣や学習習慣等に関する調査の傾向**

【学習環境・生活環境について】
・基本的な生活習慣（朝食・睡眠・起床時刻）については、全国値とほぼ同じ。
・「健康にすごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てていますか。」は全国値とほぼ同じ。
・「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。」に対し、肯定的な回答をしている児童の割合が全国値を上回っている。
・「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると思いますか」や「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対し、肯定的な回答をしている児童の割合が全国値を下回っている。
【規範意識・自己有用感について】
・「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」や「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」に対し、肯定的な回答をしている児童の割合が全国値を上回っている。
・「自分には、よいところがあると思いますか」や「将来の夢や目標を持っていますか」に対し、肯定的な回答をしている児童の割合が全国値をやや上回っている。
・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」や「人が困っているときは、進んで助けていますか」に対し、肯定的な回答をしている児童の割合が全国値を下回っている。
・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対し、肯定的な回答をしている児童の割合が全国値をやや下回っている。
【地域や社会に関わる活動の状況について】
・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」に対し、肯定的な回答をしている児童の割合が全国値を下回っている。
【学習に対する興味・関心について】
・「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」に対し、肯定的な回答をしている児童の割合が全国値をやや下回っている。
・「算数の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか」に対し、肯定的な回答をしている児童の割

合が全国値をやや上回っている。
・「国語の勉強は好きですか」や「国語の勉強は大切だと思いますか」に対し、肯定的な回答をしている児童の割合が全国値を下回っている。
・「算数の勉強は好きですか」、「算数の勉強は大切だと思いますか」に対し、肯定的な回答をしている児童の割合が全国値を下回っている。

## 3．今後の取り組みと改善

本校では、研究テーマを「学びに没頭する児童の育成～ユニバーサルデザインの視点を活かした授業づくり～」と設定し、説明的文章を教材にして、児童が自分の考えを粘り強く構築する力の習得を目指して授業を進めています。そのために、児童の「やってみたい」「考えてみたい」という好奇心をかき立てる授業の仕組みを設定し、課題に対して主体的に物事を考える力を伸ばしていきます。また、授業での学びをより深めるための手だてとして、全学年で説明的文章における指導内容を整理し、ユニバーサルデザインを活用し、言葉や文のどこに目を向けてどのように考えれば良いかという視点も授業研究に取り入れています。これにより、今回の調査で課題となった「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる」に対しても、文と文の相互関係を理解し、区別しながら使い分けられる力の習得を目指します。

「教科に関する調査」において、算数では、平均正答数は全国値を下回る結果となりました。「データの活用」の領域は全国値を上回っているものの、「図形」「変化と関係」「数と計算」の領域は全国と比べて課題があります。課題に対する見方や考え方を交流したり、図と問題文の関連をイメージしやすくするために、ICT をより効果的に取り入れるなど、指導法の工夫改善に努めていきます。

引き続き、家庭や地域の協力を得て、最後まであきらめず、他人を尊重する気持ちや態度を育めるような学校づくりを目指していきます。よろしくお願いします。